

平成28年度 大田区立蒲田小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

大田区立蒲田小学校は、羽田空港や多くの外国籍の方々も暮らす町として国際化の進む地域にあり、平成28年度は、通常学級15学級、特別支援学級(固定2学級)、日本語学級(通級)3学級を併設している。今年度、開港137周年を迎える伝統のある学校として、地域の方々にさせられ、保護者も学校に協力的である。また、平成15年度から、東京都教育委員会指定の人権尊重教育推進校として取り組んでおり、校内研究において各教科と人権課題、日常的な指導から人権教育を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:「学習中、友達の話を中心して聞こうとしていますか」と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」の割合が80%以上
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:「学習中、友達の話を中心して聞こうとしていますか」と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」の割合が75%以上
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:4:「学習中、友達の話を中心して聞こうとしていますか」と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」の割合が70%以上
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:「学習中、友達の話を中心して聞こうとしていますか」と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」の割合が65%未満
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	
		校内研究では全学年で国語科、特別活動(学級会)、人権課題(道徳授業、総合的な学習の時間)で、それぞれの教科・領域で付けたい力をはぐくむとともに、人権教育を通して付けたい資質・	
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守るようとする意識を高める。	4:「自分にはよいところがありますか」の児童の「ある」の割合が、80%以上
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:「自分にはよいところがありますか」の児童の「ある」割合が、75%以上
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:「自分にはよいところがありますか」の児童の「ある」の割合が、70%以上
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:「自分にはよいところがありますか」の児童の「ある」の割合が、65%未満
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	
		都の人権尊重教育推進校として、「外国人」「障害者」「同和問題」に関して、自分の大切さとともに、他人を大切に育てる児童を育成する。	
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:新体力テストの総合評価がC以上の児童が60%以上
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:新体力テストの総合評価がC以上の児童が50%以上
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:新体力テストの総合評価がC以上の児童が45%以上
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:新体力テストの総合評価がC以上の児童が45%未満
		通年で大縄跳びを実施していくことで、体力の向上を図るとともに、技能の向上と学級集団として協力し合う気持ちを高める。	
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「学習環境が整っている」の割合が90%以上
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、王任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:「学習環境が整っている」の割合が85%以上
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:「学習環境が整っている」の割合が80%以上
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:「学習環境が整っている」の割合が80%未満
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	
		「学校からのたよりやホームページの情報で学校の様子がよくわかる」ように伝えている。	
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の割合が90%以上
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の割合が85%以上
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の割合が80%以上
		町会、区役所(防災課)と連携して会議を実施し、「学校防災活動拠点事業」のマニュアルの精査、夜間訓練等に取り組む。	1:学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の割合が80%未満

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。